

#### 4. 事後調査の結果の概略

事後調査結果の概略は、表 4.1(1)～(2)に示すとおりである。

表 4.1(1) 事後調査結果の概略

項目	事後調査結果の概略
大気汚染	<p>大気汚染の環境保全対策が適切に行われていることを確認した。</p> <p>施設の稼働に伴う排出ガスの調査結果は、四塩化炭素は <math>0.2 \mu\text{g}/\text{m}^3</math> であった。ベンゼンは <math>1.1 \mu\text{g}/\text{m}^3</math> であったが環境基準以下であった。それ以外は定量下限値未満であった。(ただし、水銀については検出下限値以上、定量下限値未満の数値で <math>0.04 \mu\text{g}/\text{m}^3</math> であった。)</p> <p>搬出入車両走行沿道における二酸化窒素 (PTIO 法) の調査期間中の平均値は <math>0.025 \text{ ppm}</math> であった。また搬出入車両走行沿道、最寄りの京浜島測定局での浮遊粒子状物質の 7 日間平均値は <math>0.017\text{mg}/\text{m}^3</math> であり施設稼働前 (<math>0.023\text{mg}/\text{m}^3</math>) のバックグラウンド濃度を下回っていた。</p>
悪臭	<p>悪臭の環境保全対策が適切に行われていることを確認した。</p> <p>施設の稼働に伴う臭気指数の調査結果は A-1 で 13、A-2 で 15、A-3 で 10 未満、A-4 で 15 であった。A-2 及び A-4 で規制基準の 13 を超えたが、本施設稼働前の現況調査 (臭気指数 15) と同等であった。</p>
騒音・振動	<p><b>【施設の稼働に伴う騒音・振動】</b></p> <p>施設の稼働に伴う騒音レベル (<math>L_{A5}</math>) は SV-1 (西側敷地境界) で <math>53\sim 69\text{dB}</math>、SV-2 (北側敷地境界) で <math>52\sim 67\text{dB}</math>、SV-3 (東側敷地境界) で <math>49\sim 70\text{dB}</math>、SV-4 (南側敷地境界) で <math>54\sim 69\text{dB}</math> であった。SV-1、SV-4 で予測結果を上回った。SV-1 で上回った要因は搬出入作業に伴う騒音、SV-4 では屋外に設置された水処理施設や重機車両の稼働音のほか、周辺の施設からの騒音と考えられる。</p> <p>施設の稼働に伴う振動レベル (<math>L_{10}</math>) は SV-1 で <math>28\sim 46\text{dB}</math>、SV-2 で <math>27\sim 43\text{dB}</math>、SV-3 で <math>27\sim 49\text{dB}</math>、SV-4 で <math>25\sim 39\text{dB}</math> であり、すべての地点で昼間夜間ともに予測結果を下回った。</p> <p><b>【施設の稼働に伴う低周波音】</b></p> <p>施設の稼働に伴う低周波音 (<math>L_{\text{Geq}}</math>) は、SV-1 は <math>74\sim 90\text{dB}</math>、SV-2 は <math>77\sim 91\text{dB}</math>、SV-3 は <math>74\sim 95\text{dB}</math>、SV-4 は <math>70\sim 84\text{dB}</math> であった。すべての地点で G 特性 (<math>L_{\text{Geq}}</math>)、平坦特性 (<math>L_{\text{max}}</math>) ともに予測結果を上回った。SV-1 及び SV-2 で上回った要因は、当初、低周波発生機器として想定していなかった送風機による影響が大きかったことによる。また SV-3 及び SV-4 地点では、周辺の施設からの影響が考えられる。</p> <p><b>【搬出入車両の走行に伴う騒音・振動】</b></p> <p>搬出入車両の走行に伴う騒音レベル (<math>L_{\text{Aeq}}</math>) は昼間の時間区分では <math>73\text{dB}</math>、夜間の時間区分では <math>71\text{dB}</math> であり、昼間夜間ともに予測結果と同程度であった。</p> <p>搬出入車両の走行に伴う振動レベル (<math>L_{10}</math>) は昼間の時間区分では <math>49\text{dB}</math>、夜間の時間区分では <math>44\text{dB}</math> であり昼間夜間ともに予測結果と同程度であった。</p>

表 4.1(2) 事後調査結果の概略

項目	事後調査結果の概略
水質汚濁	<p>秋季のW-1、W-2及びW-3でふっ素、W-3でほう素が環境基準を上回った。                      冬季のW-1、W-2及びW-3でふっ素、W-3でほう素が環境基準を上回った。                      春季のW-1、W-2でふっ素、W-3で砒素及びほう素が環境基準を上回った。                      夏季のW-1、W-2でふっ素、W-3でほう素が環境基準を上回った。                      ふっ素、ほう素については本施設稼働前の現況調査でも同様な傾向が確認されていることから、海水由来または埋め土由来のものと考えられる。また、春季のW-3の砒素については追加調査をしたところ 0.006mg/L（満潮時）及び 0.004mg/L（干潮時）と環境基準を下回った。</p>
地盤	<p>調査時点においても工事完了前と地盤の状況に変化はないことから、地盤全体としては、液状化の程度が「軽微」に収まること条件を満足しており、液状化の恐れはなく施設の倒壊など周囲への影響はないと考える。                      なお、平成 29 年 11 月～平成 30 年 10 月の期間に、計画地周辺（観測地点：東京国際空港）で震度 1 以上の地震は 35 回あり、そのうち震度 3 は 2 回、震度 2 は 5 回、震度 1 は 28 回あったが、計画地内で液状化現象は確認されなかった。</p>
水循環	<p>浸透施設による対策量として、雨水貯留槽の 77.4m<sup>3</sup> 及び緑地の 63.7m<sup>3</sup> を合わせて 141.1m<sup>3</sup> の対策量を整備している。</p>
景観	<p>「主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度」については、計画変更により予測時よりも本施設の建物高さが 7.1m 低くなったことにより、周辺の建物に埋没していること及び色合いが周囲と調和していることにより予測地点からの視認が困難な状況である。「施設の設置に伴う代表的な眺望地点から眺望の変化の程度」については、No. 1 は計画変更により予測時よりも建物高さが低くなったことにより、視認できず眺望の変化はない。No. 2 は当初のデザインよりも周囲に溶け込むものになったこと、予測時よりも建物高さが低くなったことにより眺望の変化は小さい。No. 3 は前面に他の事業所の建屋が建ったこと、予測時よりも建物高さが低くなったことにより、視認が困難である。</p>
廃棄物	<p>廃棄物の排出量は 282,728t、再資源化率は 97.5% であり予測結果を上回った。</p>
温室効果ガス	<p>温室効果ガス排出量は電力使用、軽油使用合わせて 992t-CO<sub>2</sub>/年であり、予測結果を下回った。太陽光発電量は 72,039.9kWh/年であり、予測結果を上回った。温室効果ガス削減量は 35t-CO<sub>2</sub>/年であり、予測結果を上回った。</p>